様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　 ５ 月　 ９ 日現在

機関番号：２３２０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2024
課題番号：２１Ｋ１０８８７

研究課題名（和文）妊娠早期からの切れ目のない支援に向けた気がかりな妊婦のアセスメント指標の開発

研究課題名（英文）Development of Assessment Indicators for Concerned Pregnant Women for Seamless Support from Early Pregnancy

研究代表者
西村　香織（Kaori, Nishimura）

富山県立大学・看護学部・講師

研究者番号：２０８４６１３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は地域と医療機関の看護職が気がかりと感じる妊婦を確実に把握し、支援につなげることを目指し「看護職が妊娠早期に活用する気がかりな妊婦のアセスメント指標を開発すること」である。指標の開発に向けて、熟練助産師と保健師へのインタビュー内容を質的に分析し、先行研究と合わせて気になる妊婦のアセスメント項目45項目を抽出した。45項目に対して、専門家による調査およびパイロットスタディを実施し、39項目の妥当性を確認した。これらをもとに、全国の助産師および保健師2000名を対象に質問紙調査を実施した。現在分析をすすめており、気になる妊婦のアセスメント指標の作成を目指している。

研究成果の学術的意義や社会的意義
今日、様々な社会背景の中、妊娠期からの児童虐待防止対策を重点課題とし、妊娠期からの切れ目のない支援が推進されている。地域や医療機関の看護職は気になる妊婦を支援の対象としているが判断指標が不明確である。本研究で気がかりな妊婦のアセスメント指標が開発されれば、看護職は気がかりな妊婦を妊娠早期にスクリーニングでき、妊娠早期から医療機関での出産、さらには地域での育児支援へつなげることができる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to “develop an assessment index of pregnant women of concern to be utilized by nurses in the early stages of pregnancy” in order to ensure that nurses in the community and medical institutions can identify and support pregnant women of concern. In order to develop the index, the results of interviews with skilled midwives and public health nurses were qualitatively analyzed, and 45 assessment items for pregnant women of concern were extracted together with previous studies. 39 items were validated through expert surveys and pilot studies for the 45 items. Based on these items, we conducted a questionnaire survey of 2,000 midwives and public health nurses nationwide. We are currently advancing our analysis, with the aim of creating an assessment index for pregnant women of concern.

研究分野：助産学

キーワード：気になる妊婦　アセスメント指標　助産師　保健師　切れ目のない支援

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

今日、核家族化、少子化、地域の関係性の希薄化という社会環境の中で、母親の孤立による育児不安や児童虐待が問題となっている。2015 年から始まった健やか親子 21（第 2 次）では、すべての子どもが健やかに育つ社会を目指し、育てにくさを感じる親に寄り添う支援や、妊娠期からの児童虐待防止対策を重点課題とし、妊娠期からの切れ目のない支援が推進されている。看護職には支援が必要な妊婦を妊娠早期に把握し、妊娠期から産後の育児を見越した支援が求められている。昨今の施策の流れは、虐待の一次予防に重点が置かれており、2009 年の児童福祉法改正により､出産後の養育について出産前からの支援が特に必要と認められる妊婦を｢特定妊婦｣と定義し、虐待予防の観点から（Suzuki,2022）一律した支援が行われている。

一方で、地域や医療機関の看護職が、母子健康手帳交付時や妊婦健康診査時に何となく気になると感じる「気がかりな妊婦」の具体的支援は、各施設の判断に委ねられている。この気がかりな妊婦と特定妊婦はあわせて社会的ハイリスク妊婦とよばれ、今後の子育てが困難であろうと思われる妊娠と表現される（光田科研,2017)。現在、特定妊婦の判断指標は「若年」､｢妊婦健康診査未受診」､｢経済的問題」など、厚生労働省のガイドラインに基づいている。しかし、特定妊婦の判断指標には該当しなくとも、すべての子どもが健やかに育つためには｢今後の子育てが困難になることが予測される妊婦」を支援の対象と捉えるべきであり、特定妊婦と同様に気がかりな妊婦への支援が重要である。

気がかりな妊婦は、概念や判断指標が不明確であり、言語化されていないことから、気がかりな妊婦の判断は看護職個人の感覚や違和感といった看護職の価値観や経験知による主観的指標に基づいている。妊娠期から産後を見越して必要な支援を行うには、アセスメント指標が必要である。アセスメント指標を用いて、気がかりな妊婦を妊娠早期から抽出し、切れ目のない支援を行うことで、産後子育てが困難になる可能性のあるすべての妊婦を早期から支援につなげることが重要である。

２．研究の目的

地域と医療機関の看護職が気がかりな妊婦を確実に把握し、支援につなげる方法は何か、を学術的問いとし、気がかりな妊婦のアセスメント指標を開発することを目的とする。

３．研究の方法

研究１：分娩実施機関および地域の母子保健担当課の看護職に、気がかりな妊婦についてインタビュー調査を実施し、気がかりな妊婦のアセスメント項目を抽出する

（1）研究対象者

研究対象者は日本国内で妊婦の支援の中心を担う助産師と保健師とした。そのうち北陸地方の産科を有する病院 3 施設の助産師と、母子保健課 5 施設の保健師に依頼した。研究対象者の選定は看護部門の責任者に依頼し選定してもらった。研究参加は自由意思であり、参加を拒否できること、拒否した場合に不利益を被らないこと、研究参加に同意した後に、いつでも同意を撤回できることについて、書面と口頭で明確に説明した。各施設の責任者は研究対象者の選定のみ行い、研究の依頼と同意の確認は研究者が行い、同意が得られた者を研究対象者とした。研究への参加基準は、妊婦の支援に携わっている経験年数が 4 年目以上で、ベナー臨床看護実践の 5 段階の技能習得レベルの中堅レベル（Benner，2001）に達していると推測される者とした。

（2）データ収集方法

データ収集は 2021 年 10 月～2022 年 6 月までの 8 か月間であった。研究者は、研究の同意が得られた助産師 15 名と保健師 7 名に対してインタビューガイドを用いた半構造化インタビューを実施した。

研究対象者には、Tanner（2006）の臨床判断モデルの初期把握の段階に着目し、気がかりな妊婦を明らかにするという本研究の目的に準じて、助産師と保健師が気になると感じた妊婦について 1 名から 2 名、想起してもらった。インタビューガイドは、｢気になると判断した具体的な妊婦の言動や行動を教えて下さい」､｢なぜ､その言動や行動が気になると感じたか教えて下さい」とした。インタビューは、研究対象者のプライバシーに配慮した個室で個別に行った。

（3）データ分析方法

助産師または保健師が語る思考プロセスのうち、臨床判断の最初の段階である「初期把握」の段階に焦点を当てた。研究対象者が気になる妊婦と判断するまでの一連の思考プロセスを語っていると読み取れる箇所を一事象と捉えた。研究者は、逐語録に起こした文字データを熟読し、助産師と保健師から語られた思考プロセスを一事象ごとに取り出して記述し、助産師と保健師の初期把握に焦点を当て、その意味内容で、分類・整理・統合し、焦点化のためのコードを作成、サブカテゴリー、カテゴリーを生成した。

（4）倫理的配慮

WMA ヘルシンキ宣言、人間を対象とする医学研究の倫理的原則（World Medical Association，2013）に従って実施した。インフォームドコンセントとして、研究者は研究対象者に、研究の目的と方法、プライバシーの保護、および研究への参加と研究の撤回、データの保存期間や研究成

果の公表について書面および口頭による説明を行った。研究対象者が同意書に署名することにより、同意を得た。

研究 2：アセスメント指標の開発に向けた予備調査と全国調査の実施

（1）研究対象者

予備調査：研究対象者は、A 県内の母子保健部門または看護部門の責任者の承認が得られた分娩取り扱い施設 16 施設、母子保健担当課 22 施設に勤務し、妊婦健康診査や妊婦保健指導、母子健康手帳交付など妊婦の支援に携わっている助産師、保健師とし、各施設 3 名ずつの計 114 名に依頼した。

本調査：全国の母子保健部門または看護部門の責任者の承認が得られた分娩取り扱い施設 1000 施設、母子保健担当課 1000 施設に勤務し、妊婦健康診査や妊婦保健指導、母子健康手帳交付など妊婦の支援に携わっている助産師、保健師 2000 名に依頼した。

（2）データ収集方法

データ収集期間は 2024 年 10 月～11 月であった。調査方法は郵送による無記名自記式質問紙調査であった。調査内容は、研究対象者の基本属性として、年齢、職種、勤務場所、看護職経験年数、妊婦の支援に携わっている経験年数、1 カ月あたりの妊婦の対応件数の 6 項目と、アセスメント 45 項目の内容妥当性である。内容の妥当性を、あてはまらない、ほとんどあてはまらない、あてはまる、非常にあてはまる、のリッカート 4 件法で回答を求めた。

（3）データ分析方法

CVI の計算には I-CVI と S-CVI を求めた。先行研究では、優れた内容妥当性を持つ尺度と判断されるためには、I-CVI が 0.78 以上、S-CVI/Ave が 0.90 以上の項目で構成されることを推奨されることから（Polit,2007）、この基準をみたすものを妥当性があるとした。

（4）倫理的配慮

倫理的配慮は、郵送した研究対象者の依頼文書に、研究目的、研究方法、研究協力に関する自由、研究を拒否した場合も不利益がないこと、研究の公表に関することについて記載した。研究協力への同意は回答と郵送をもって同意とする旨を明記した。

研究の実施にあたっては所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

４．研究成果

研究 1

（1）研究対象者の概要

研究対象者は日本国内の北陸地方の産科を有する病院 3 施設の助産師 15 名と、1 自治体の母子保健課 5 施設の保健師 7 名の計 22 名であった。研究参加者 22 名の妊婦の支援に関わっている経験年数は 6 年から 35 年で平均 16.4±7.7 年であった。

（2）分析内容

89 事象の思考プロセスから、中堅以上の助産師と保健師に見出された気がかりな妊婦に関して、249 コード、10 サブカテゴリーが抽出され、最終的に【脆弱な家族機能】、【社会的孤立】、【社会生活に適応しにくい特性】、【妊娠による心身の変化への不適応】の 4 つの主要なカテゴリーに分類された。

カテゴリー【脆弱な家族機能】

「夫に怯えている様子で 1 回 1 回伺いを立てる」「医療者の質問に妊婦より先に付き添いの家族が答える」など 55 コードから＜家族との関係がうまくいっていない＞のサブカテゴリー、「家族がいても 1 人で育児をする時間が多いことが想定される」、「妊婦の家族が高齢であり両親のサポートが得られない」など 28 コードから＜家族からのサポート体制が不足している＞のサブカテゴリーが抽出された。

カテゴリー【社会的孤立】

「地域や社会との交流が少ない」、「自分からすすんで人とのつながりを求めない」など 11 コードから＜地域社会で頼れる人がいない＞のサブカテゴリー、「自宅の環境や実家など、自分の身の上のことを深堀されることを拒否するような雰囲気がある」、「行政に来たがらないし、つないでほしくないなど医療者と関わりを持ちたくない様子がある」など 31 コードから＜行政・病院との関わりを避ける＞のサブカテゴリーが抽出された。

カテゴリー【社会生活に適応しにくい特性】

「文字の書きぶりや文字を検索して書く様子から知的な面に特性がある」、「理解力が乏しく会話中に何度も同じことを話す必要がある」など 11 コードから＜学習上の問題がある＞、「椅子にじっと座って待てず落ち着きのない行動がみられる」、「会話中に何度も同じことを繰り返し聞いて固執する」など 15 コードから＜発達上に問題がある＞のサブカテゴリー、「些細な質問があまりにも多く 1 つ 1 つ確認する」、「話ながら涙する」など 31 コードから＜情緒の不安定さがある＞のサブカテゴリー、「視線が合わない」、「質問に対する応答がない」など 23 コードから＜コミュニケーションが成立しにくい＞のサブカテゴリー、「慢性疾患合併妊婦であり妊娠・出産・育児の経過の中で、疾患の悪化が懸念される」など 27 コードから＜母体の健康が懸念される＞のサブカテゴリーが抽出された。

カテゴリー【妊娠による心身の変化への不適応】

「妊娠中の胎動が不快であるとか、かわいくないといった胎児への負の発言がある」など、17 コ

ードから＜妊娠の受容が進んでいない＞のサブカテゴリーが抽出された。
これらの質的研究の成果と先行研究から気になる妊婦のアセスメント項目 45 項目を作成した。

研究 2
（1）研究対象者の概要
配布した 114 部の質問紙のうち、74 名（回収率 64.9%）より回答を得、3 名は看護師としての経験年数が 3 年未満であったため、除外した。71 名のうち、全項目に回答があったものは 68 名（59.6%）であった。本研究ではこの 68 名を分析データとした。助産師は 40 名、保健師は 28 名であった。看護師経験年数は 17.6±8.1 年、母子の支援に携わった経験年数は 14.3±6.9 年であった。
（2）分析結果
本研究における 45 項目の項目ごとの内容妥当性について、45 項目全体の S-CVI は（0.873）であった。内容妥当性として I-CVI が 0.78 に満たなかったものは 4 項目であった。I-CVI が 0.78 に満たなかった 4 項目を除外した 41 項目全体の S-CVI は（0.897）であった。内容を検討し、表現や内容が類似しているもの、意味が捉えにくい項目を修正、除外した結果、最終的に 39 項目が得られ、39 項目全体の Scale-CVI は 0.90 で妥当性の高い結果が示された。39 項目で全国調査を実施し、現在回収までを終えた。今後、分析をすすめ、気がかりな妊婦のアセスメント指標の作成と運用を目指す。

<引用文献>

Suzuki, S. (2022). Appropriate support for “specified expectant mothers”. JMA Journal, 5(1), 17–22. https://doi.org/10.31662/jmaj.2021-0165.

光田信明他．妊婦健康診査および妊娠届を活用したハイリスク妊産婦の把握と効果的な保健指導のあり方に関する研究．厚生労働省科学研究報告書.2017.

Benner, P. (2001). From novice to expert: Excellence and power in clinical nursing practice, commemorative edition. Menlo Park, CA: Addison-Wesley Publishing Company.

Tanner, C. A. (2006). Thinking like a nurse: A research-based model of clinical judgment in nursing. Journal of Nursing Education, 45(6), 204–211. https://doi.org/10.3928/01484834-20060601-04.

World Medical Association. (2013). WMA Declaration of Helsinki – Ethical Principles for Medical Research Involving Human Subjects (1964, amended effective October 2013). https://www.wma.net/policies-post/wma-declaration-of-helsinki-ethical-principles-for-medical-research-involving-human-subjects/

Polit DF, Beck CT, Owen SV. Focus on Research Methods Is the CVI an Acceptable Indicator of Content Validity? Appraisal and Recommendations. Research inNursing&Health.30,459-467,2007.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 西村 香織、北島 友香、工藤 里香、松井 弘美	４．巻 22
２．論文標題 看護者が感じる気がかりな妊婦の概念導出	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本母性看護学会誌	６．最初と最後の頁 1～8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32305/jjsmn.22.2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kaori Nishimura, Rie Okamoto, Shizuko Omote, Yuka Kitajima, Hiromi Matsui	４．巻 48
２．論文標題 Pregnant women of concern as identified by proficient and expert midwives and public health nurses	５．発行年 2025年
３．雑誌名 Journal of wellness and health care	６．最初と最後の頁 13～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24517/0002002215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Nishimura Kaori , Kitajima Yuka , Terai Takahiro , Kudo Rika , Matsui Hiromi , Okamoto Rie , Omote Sizuko
２．発表標題 What Nurses Notice About Pregnant Women of Concern
３．学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 西村香織、北島友香、工藤里香、松井弘美
２．発表標題 看護者が感じる気がかりな妊婦の概念導出
３．学会等名 第23回日本母性看護学会学術集会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

―

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	北島　友香 (Kitajima Yuka) (00846131)	富山県立大学・看護学部・講師 (23201)	
研究分担者	表　志津子 (Omote Shizuko) (10320904)	金沢大学・保健学系・教授 (13301)	
研究分担者	寺井　孝弘 (Takahiro Terai) (20595326)	富山県立大学・看護学部・准教授 (23201)	
研究分担者	松井　弘美 (Hiromi Matsui) (70515725)	富山県立大学・看護学部・教授 (23201)	
研究分担者	工藤　里香 (Rika Kudo) (80364032)	京都橘大学・看護学部・准教授 (34309)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関